

【計画名： 十和田市現代美術館を中核とした十和田市文化観光推進拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者の満足度（%）	85%	83%	98%	87%	87%	100%	89%		91%		93%	
来訪者数（総数）（人）	41,000	86,126	210%	80,000	86,881	109%	110,000		140,000		170,000	
来訪者数（外国人）（人）	100	600	600%	4,000	1,069	27%	6,000		8,000		10,000	
現代美術館来訪者の平均消費額（円）	20,000	23,930	120%	22,000	23,459	107%	24,000		26,000		28,000	

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業1-①	美術館コレクションの魅力向上事業	—	・常設作品の作家3名の近作調査やインタビューを実施 ・新規常設作品の写真撮影を行い、WEBに公開した。作品解説とともに多言語で紹介 ・常設作家の基礎的調査と解説作成のため、専門人材を雇用 ・照明をLED化し、作品のディテールを際立たせ、魅力を向上させた。	7.3百万円
事業1-②	観光客と市民が地域の文化について理解を深める事業	—	・令和4年度に「三本木小唄ナイト」を実施するための調査事業を実施	
事業1-③	常設作品の入れ替えによる魅力向上事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・アーツ・トワダのグランドオープン10周年を記念し、常設作品の入れ替えを行い、すでに美術館を訪れたことがある方に対しても再訪動機を高めるほか、作品の充実により新規の誘客もさらに促進される。 ・既存作品との入れ替え 1 作品 ・倉庫を展示室に改装し、寄託作品を展示 1 作品	【文化観光推進事業外の事業】 ・展示室を増築し、作品を新設 1 作品	
事業1-④	地域交流センター整備事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・企画展などに利用できるギャラリーや外壁アートなどを備えた多用途施設を整備し、現代美術館の企画展を展示室で実施する等、現代アートを活用した地域交流の拠点とする。工事を令和3年度へ繰越。	【文化観光推進事業外の事業】 同左 (工事を令和4年度へ繰越。)	
事業1-⑤	アーツ・トワダウインターイルミネーション事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・十和田市現代美術館アート広場に約30万球のイルミネーションを敷き詰め、屋外アート作品とイルミネーションとが融合したイベント「アーツ・トワダ ウインターイルミネーション」を実施した。	【文化観光推進事業外の事業】 同左	
事業1-⑥	アートツーリズムを軸にした旅行商品造成事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・アートに興味を持つ若年層を主なターゲットに、十和田市現代美術館の見学ならびに有名建築家が設計した市内の建築物や冬ならではのイルミネーションイベントを現地ガイドの案内で楽しめる新しい切り口での個人旅行向けプランを造成した。	—	
事業1-⑦	十和田・八甲田地域ナイトタイム市場創出事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・株式会社城ヶ倉観光が企画する富裕層向けの特別な体験メニュー創出事業と連携し、フォトワークショップを閉館後の館内でナイトミュージアムとして実施。	—	
事業1-⑧	アートを活用した新たな時間市場の創出事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・「ウマジン※」をテーマに中国・台湾・欧米のインバウンドをターゲットとしたナイトタイムコンテンツを開発し、誘致促進のためのモニターツアー及びオンラインFAMツアーを実施した。※十和田市のアートアイコン（被り物）	—	
事業1-⑨	アートのある地域づくり事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・アートと自然の街の景観に合うよう地元建築士が設計・デザインした果産木のテントブースを使用し、「街なかアートマルシェ」を全4回開催した。地元農家、店舗経営者、学生らが参加し、地域全体でエリアの魅力創造・発信し、賑わい創出と消費拡大につなげた。	—	
事業1-⑩	現代美術館を発着地としたツアー造成	【文化観光推進事業外の事業】 ・欧米豪をターゲットとしたプライベート・ナイトミュージアムツアーやテレビ会議システムを利用した十和田市現代美術館オンラインツアー（国内、フランス向け）を企画・販売した。	—	
事業1-⑪	ナイトミュージアムツアー	【文化観光推進事業外の事業】 ・新型コロナウイルス感染症の影響によりツアー未実施。	—	
事業1-⑫	ポップアップルーム設置	【文化観光推進事業外の事業】 ・株式会社城ヶ倉観光の富裕層向けのメニューとして、高温泉旅館の特別室（和室）にて十和田市現代美術館のポップアップルームを設置。	—	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により例年と比較すると来訪者数は減少している。 ・一方、12月は前年度、前々年度と比較して増加しているが、これは事業1-③常設作品の入れ替えによる効果が大きいと思われる。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度及び令和3年度は概ね目標を達成できた。 ・外国人の来訪者については国内在住の外国人以外の誘客は見込めない状況であり、目標達成が難しい。

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業2-①	海外からの観光客に向けて文化についての理解を深める事業	—	・多言語オーディオガイド機器を導入 ・外国人観光客の作品理解の向上のため、作品の多言語鑑賞ガイドをリニューアル	9.3百万円
事業2-②	美術館のコレクション理解向上事業	—	・常設作品の魅力の理解につながるよう、下記のとおり分かりやすい解説・紹介を実施 ・学芸員によるギャラリー・トーク ・サポーターガイド育成 ・上記のための専門人材雇用	
事業3-①	海外からの観光客の来館利便性向上事業	—	・新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンド誘客が見込めないため未実施。	1.0百万円
事業3-②	海外からの来館者の館内利便性向上事業	—	・館内案内サイン等の多言語化を実施 ・館内の主要な展示室及び通路におけるWi-Fi整備を実施	
事業4	十和田市の食材を使用したカフェの新メニュー開発事業	—	・本市の食材を使ったカフェの新メニューを開発	0.5百万円
事業5-①	国内外への宣伝事業	—	・中国語及び韓国語のWEBページを作成	2.2百万円
事業5-②	十和田湖を訪れる観光客と市街地を訪れる観光客をつなげる事業	—	—	
事業5-③	県内美術館連携誘客事業	【文化観光推進事業外の事業】 ・県内5館が連携し、協議会を設立。共通ホームページを立ち上げたほか、館長等によるトークイベントを実施し、PRを行った。	【文化観光推進事業外の事業】 ・共通ホームページの充実を図ったほか、建築を共通のテーマとした展示イベントを実施した。 ・弘前れんが倉庫美術館と連携し、外国人観光客に長時間滞在してもらい街歩きを促すためのアートをテーマにしたマップを作成した。	
事業6	美術館の魅力・利便性向上に係る施設整備事業	—	(再掲) ・照明LED化 ・館内Wi-Fi整備	5.2百万円 ※事業1の0.73百万円、事業3の1.0百万円を含む
各年度ごとの実績額→		—	20.3百万円	20.3百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析) ・外国人観光客の入国が徐々に見込まれる中、多言語案内の充実やWi-Fi整備等、受入環境の整備に関する事業を順調に実施できている。 ・常設作品の入れ替えによる魅力の向上が図られた。 ・コロナ禍で通常どおりの誘客ができない中、収束後に向けてボランティアガイドの育成や解説の充実など案内の体制が強化された。
(評価) ・新型コロナウイルス感染症の影響によるツアーの中止等、やむを得ない事業以外は、計画どおり実施できた。 ・インバウンド向けの事業の評価は、実際に来訪した外国人の満足度を図ることができず、現時点では効果の検証が難しい。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

	↓文化観光拠点施設名
要件	十和田市現代美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・作品の背景や価値をストーリー性を持ってわかりやすく解説するため、作家本人へのインタビューを通じて作品の魅力を深く掘り下げ、多言語オーディオガイドにより、来館者へわかりやすく伝える取組を進めている。 ・また、観光客に向けて作品の魅力を紹介できるガイドを育成している。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・情報通信技術を活用するうえで基礎となる館内Wi-Fiを整備した。 ・多言語オーディオガイドを導入した。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・本市への外国人観光客の8割以上を占める台湾、中国、香港など東アジア地域からの来館者に向けて、WEBの多言語化により案内を充実させた。 ・外国人の満足度向上を図るため、作品について理解を深めるための多言語オーディオガイド機器の導入のほか、作品の多言語解説シートの更新を行った。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・美術館や屋外アート作品を活用した中心市街地における観光振興について、市とDMO（十和田奥入瀬観光機構）が個別の事業ごとに随時連携し、取り組んでいる。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・平成29年度から本市を訪れる観光客からヒアリング調査を行っており、観光目的や旅行消費額等のデータ収集、分析を行っている。（令和元年度からは十和田市からの委託を受けたDMO（十和田奥入瀬観光機構）が実施） ・美術館指定管理者のナンジョウアランドアソシエイツグループでは独自に来館者に対するアンケート調査を行っており、来館動機や情報収集源、利用交通機関等のデータ収集、分析を行っている。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	・毎年度実施している十和田市事務事業評価において、美術館事業の実施効果を評価し、内容の改善に努めている。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

【地域DMO 一般社団法人十和田奥入瀬観光機構】 ・新規常設作品入れ替え後の十和田市街地（美術館周辺エリア）の宿泊者数は、対前年比110%のプラスとなり、また3作品目新設の令和3年12月期においては、対前年同月比109%、コロナ前の対前々年同月比も109%に上り、市街地への集客率が向上している。 ・令和2年度に当法人が取り組んだ現代美術館を発着地としたツアー造成事業で、美術館と連携し企画・実施したオンラインツアー「フランス人向けアートツアー」（令和3年4月実施）では、フランスからの申込者89名／参加者59名、満足度100%、来訪意欲が「非常に訪りたい」で76%に上り、外国人の作品理解度や新規常設作品入れ替えによる認知度が向上しているとみられる。 ・当法人が令和3年度より収集しているアンケート分析において、現代美術館を訪問する旅行者は県内4館の美術館も訪問する傾向が多く見られるため、県内美術館連携誘客事業によるプロモーションの効果と考えられる。 以上、コロナ禍で休館や企画展の延期など、誘客に支障をきたす厳しい状況の中にあっても、常設作品の入れ替え等により国内からの誘客を促進している。また、コロナ収束後のインバウンド誘客に向けて、受入環境整備に関する事業が進められており、今後の誘客や満足度向上にも期待できる。

⑦今後の改善の方向性

・拠点計画に基づき、美術館を文化観光の拠点として機能を強化することにより、美術館そのものへの来館者の増加や周辺への経済波及効果の増加を図る。 ・「アーツ・トワダ ウィンターイルミネーション」などのように、美術館本体のみならずアーツ・トワダ（アートによるまちづくり）を活用した誘客の取組をさらに増加することで、本市の賑わいの創出やアートの街としてのイメージの定着を図る。
